

令和 7 年 2 月 2 5 日

保護者様

丹波市立崇広小学校長 堀 博文

学校評価アンケートのお礼と結果

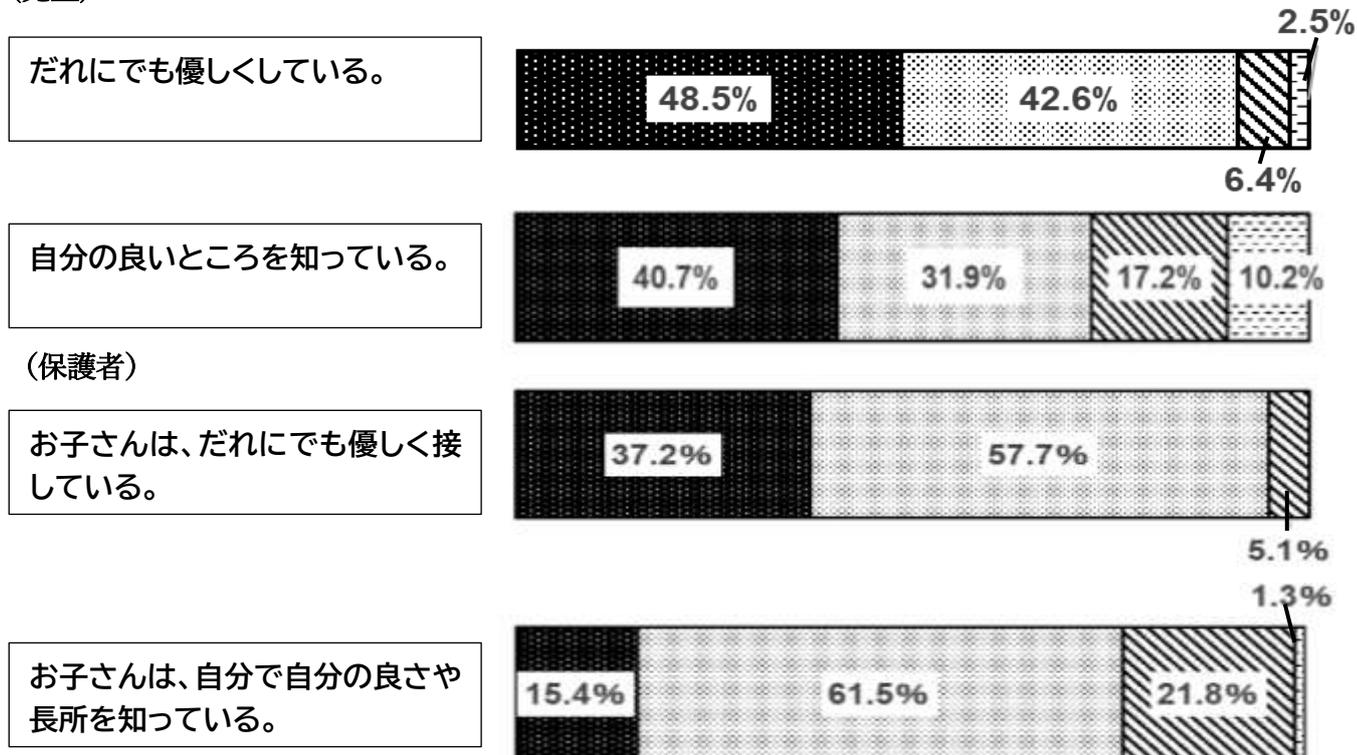
余寒のみぎり、保護者の皆様におかれましては益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。平素は本校教育にご理解・ご協力をいただきありがとうございます。

さて、12月に学校教育目標「ふるさとを愛し自ら学び続ける心優しい崇広っ子の育成」に基づいた学校評価アンケートを、さくらメールを使って実施しましたところ、お忙しい中多くの皆様にご協力いただき、ありがとうございました。

保護者のアンケートと同じような観点で、児童アンケートについても実施しました。特筆すべき点について2つのアンケートの結果と今後の対応の方向性をまとめましたので、どうぞご覧ください。また、このアンケート結果を、来年度以降の指導や家庭との連携に役立てていきたいと考えています。保護者の皆様におかれましても、今回のアンケートで、お子さんの現状や関わり方について振り返っていただく機会となれば幸いです。

【学校教育目標に関する設問について】

(児童)  そう思う  どちらと言えばそう思う  どちらかと言えばそう思わない  そう思わない



〈現状〉

学校教育目標「ふるさとを愛し 自ら学び続ける 心優しい崇広っ子の育成」を常に意識しながら教員は日々指導を行っています。心の優しさについては、児童会行事などの企画活動や清掃活動など日常の場面でも異学年による縦割り班活動を取り入れることで、人に優しくできていると感じられる場面が

増えています。また、今年度は授業において道徳にも力を入れ、人に優しく接することの大切さを常に説いています。一方で教職員は自尊感情を高めることを意識して日々取り組んでいますが、児童の自尊感情については心の優しさほどは高まっていない現状があります。

〈今後の対応について〉

今後については、「いいところ見つけ」を通して友だちから良い評価を得ていくことを継続しながら、道徳の時間などに自分の行動を振り返って自分の頑張りや自分の良さに気づく機会を増やしていきたいと考えています。また、教職員も児童の様子を多面的に把握し、掃除や給食当番、係活動、委員会活動などに一生懸命取り組んでいる児童一人ひとりの姿を価値づけし、誰かのために役立っているという自己有用感も高めていきます。そして教科学習においては、児童一人ひとりが「わかる」「できる」場面を増やすことによって、自分に自信を持たせ、自尊感情を高めていきたいと考えています。そのためにも、教職員は魅力ある授業づくりを目指し、日々授業の工夫改善に取り組んでいきます。さらに今年度も各学級で自由進度学習にも少しずつ取り組みました。次年度以降、効果的な自由進度学習のあり方を教職員全体で研修し、児童自ら判断し行動していく「自走」を目指した取り組みに活かしていきたいと考えています。

【子どもたちの学びに関する設問について】

■ そう思う ▨ どちらとも言えそう思う ▩ どちらかと言えばそう思わない □ そう思わない

(児童)

学校で、どんなことでも目標をもって、ねばり強く、一生懸命学ぼうとしている。

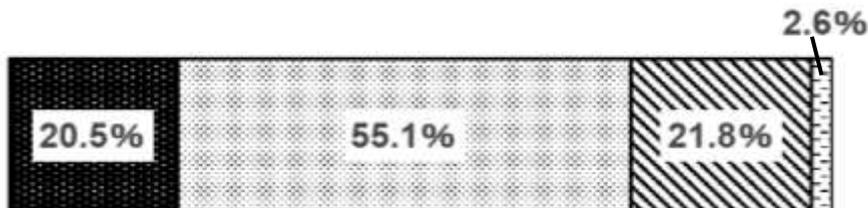


自分から家での勉強に取り組んでいる。



(保護者)

お子さんは、何事にも目標を設定し、ねばり強く、一生懸命学ぼうとしている。



お子さんは、自分で計画を立てて、学校の宿題以外のこと(チャレンジノートや読書、調べ学習など)について興味を持って取り組んでいる。



〈現状〉

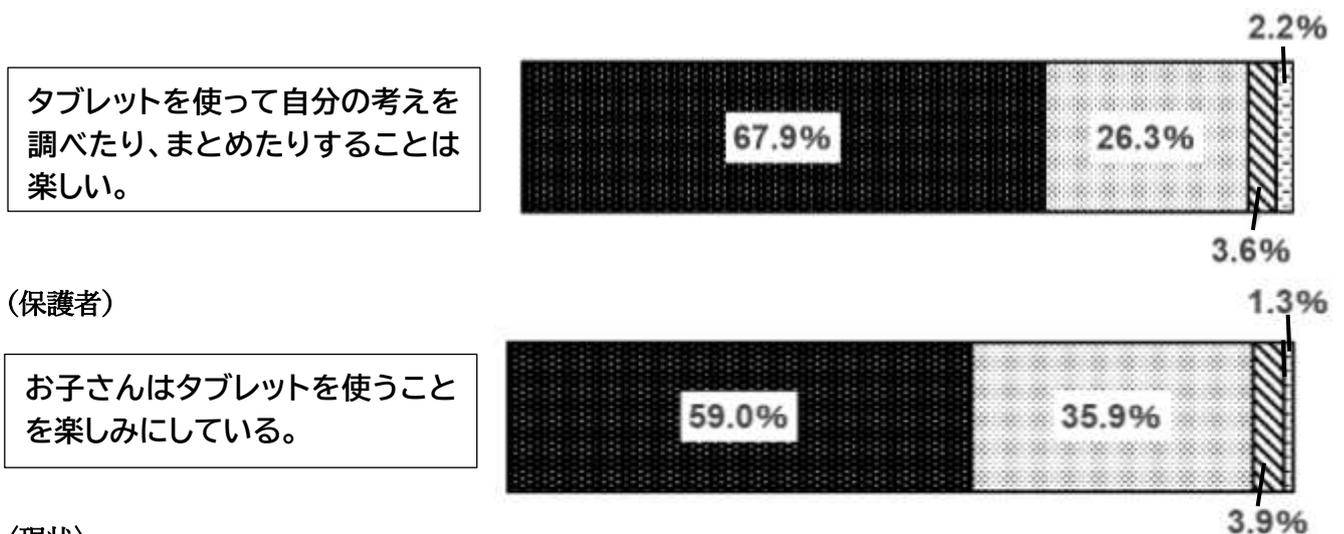
崇広小学校では、自分の目標を持って、粘り強く問題解決に向けて取り組んだり、友だちと協力しながら授業に取り組んだりと前向きな姿勢で授業に臨んでいると考えている児童がたくさんいます。しかし、保護者については家庭での児童の学習の様子を見ていて、児童が考えるほどには、粘り強く一生懸命学習に取り組んでいるとは考えておられません。さらに、家庭学習で宿題以外の自主的な学習に取り組んでいる状況は低いのが現状です。これは、家庭学習（宿題）に対する児童の意識に課題があるのではないかと考えます。宿題については「しなければならない課題」という意識を児童は持っていますが、自主的な学習は大変だと考えている児童が多く、自分の学習理解を高め、自分のプラスになるものだと捉えられている児童は少ないように思います。

〈今後の対応について〉

家庭学習を充実させていくことについては、昨年度のアンケート結果を踏まえ各学年の現状の宿題の内容は維持し、チャレンジノート（自主学習ノート）を利用して宿題プラスワンの意識を育てていきたいと考えて取り組みました。しかし、今年度も家庭学習に関しては課題点となっています。家庭学習の手引きを見直すとともに、宿題の出し方についても再検討していきます。チャレンジノートについては普段の学習の予習復習に加えテスト対策学習や自分の興味あることへの調べ学習に取り組ませるなど、自分にとって必要かつ効果的な学習になるよう指導していきます。そして、チャレンジノートを丁寧にまとめている児童やチャレンジノートが習慣となっている児童を褒めたり、評価したりして自主学習を価値づける活動は継続していきます。

【情報教育に関する設問について】

(児童) そう思う どちらと言えばそう思う どちらかと言えばそう思わない そう思わない



〈現状〉

アンケート結果より児童が楽しみながらタブレットを活用して授業に臨んでいます。授業では調べ学習を中心に、スライドにまとめて発表に活用したり、ドリル学習に使用したりしています。教職員も今年度は、昨年度作成したタブレット活用計画に基づいてタブレットの活用を意識しながら授業を進めています。さらに、算数や外国語においてデジタル教科書が配布され、積極的に教材提示でタブレットを活用しています。また、委員会活動でタイピングコンテストを企画するなど授業外での児童の活用もどんどん積極的になってきています。

〈今後の活用について〉

本校の重点施策の一つにタブレットの日常授業の活用というのがあります。授業での活用、アンケート活動での活用、委員会活動での活用と授業・授業外で積極的にタブレットが活用されるようになり、児童がタブレットをあたり前に操作する姿が見られるようになっていきます。また、児童のタイピングのスキルも大幅に高まり、高学年になるとタブレットを使った文書作成に手間取ることがなくなってきました。今後は、授業での活用を中心に、タブレットを“有効に活用”する方法を検討しながら、活用できる幅を広げていきたいと考えています。